

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	商学部
大項目	9 教育研究等環境
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 既存教室の視聴覚機器、情報処理機器を充実させる。	→貸出用CD・DVDプレイヤー、カセットデッキなどの所有台数、およびプロジェクター、PCの設置台数。	C	C	C	C	/
2. TA (ティーチング・アシスタント) によるチューター制度を確立する。	→規程の明文化。	D	D	C	C	/
3. 学部各種教員の業務負担軽減により、教員の研究時間を確保する。	→学部各種委員会数、委員数、1人あたりの委員割合。	C	C	C	C	/
					☆	
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	パソコンについては、本学部資料室の担当者に教室でのセッティングを依頼しなければならず、授業での臨機応変な視聴覚教材使用ができないのが実態である。
目標2	現状では、チューター制度は未整備である。学部学生によるL. A. (ラーニングアシスタント) 制度が全学で導入されたのに伴い、2013年度より商学部でもL. A. 制度を実施する準備を進めている。
目標3	教学補佐や実験実習補佐・教務補佐により、定期試験などの業務は軽減されているが、学部、大学の各種委員会数は減少しておらず、教員の負担は大きい。また担当授業数も教授14.5時間、准教授11.6時間、助教9.1時間と多く、研究時間の確保の改善には至っていない。
備考	

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【商学部】			単位	2009	2010	2011	2012	2013	備考
指標1	教学補佐、実験実習補佐・教務補佐、 授業補佐の採用数	教学補佐	人	25	21	24	25	30	
		実験実習 指導補佐・ 教務補佐	人	3	3	3	3	3	
		授業補佐	人	0	0	0	0	11	
指標2	専任教員の担当授業時間(平均)	教授	時間	11.3	11.9	14.9	15.1	14.5	45分をもって1時間に換算
		准教授	時間	9.9	11.4	11.3	11.1	11.6	
		講師	時間	—	—	—	—	—	
		助教	時間	—	—	8.0	11.0	9.1	